

どんなワクチンがありますか？

現在日本で公費接種可能なワクチンは3種類あります。2価・4価・9価ワクチンで、それぞれ予防可能なウイルスの型に違いがあり予防効果にも差があります。

HPVウイルスは200種類を超える型があると言われており、子宮頸がんの発症と関係が深いハイリスク型を、これら3種類のワクチンで感染予防が可能です。

※接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります

9価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を88.3% 予防

▶ 9価ワクチン / シルガード9

HPV16型・18型・6型・11型・31型・
33型・45型・52型・58型の予防

2価・4価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を65.4% 予防

▶ 2価ワクチン / サーバリックス

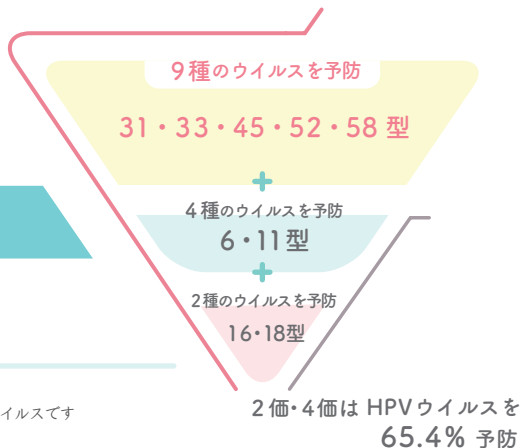
HPV16型・18型の予防

▶ 4価ワクチン / ガーダシル

HPV16型・18型・6型・11型の予防

※6・11型は、主に尖圭コンジローマという性感染症の原因となるウイルスです

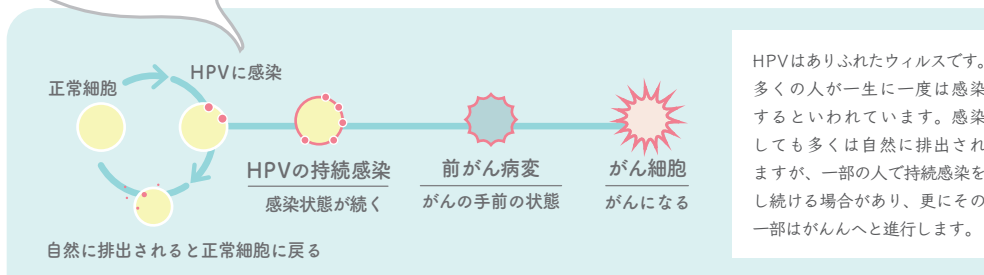
9価は HPVウイルスを **88.3%** 予防



“感染＝がん”ではなく、
検診で早期に発見すれば
治療が可能です

ワクチンを接種していても検診は必要ですか？

HPVワクチンの種類で差がありますが、接種によって60～90%の感染を防ぐことができます。ただし100%ではないため、接種の有無に関係なく定期検診が必要です。



子宮頸がん検診はどこで受けられますか？

地域の医療機関（婦人科・産婦人科）で受けられます。

検診では、既に「がんになっているか」だけでなく、「がんになりそう」な状態かどうか確認できます。

早期に発見すれば治療が可能です。